

## 飛行機と共に子どもたちの夢も羽ばたけ！～北九州空港まつり～

平成27年9月27日(日)、北九州空港では「北九州空港まつり」が開催され、親子連れなどの多くの来場者で賑わいました。「空の日」「空の旬間」に合わせて、空港をより身近に感じてもらうため、大阪航空局北九州空港事務所を中心に全20機関で結成された実行委員会主催で毎年行われています。

ターミナル前広場をメイン会場に、小倉祇園太鼓やバナナの叩き売りなどの催し物やご当地グルメ、スターフライヤーのトレーニングセンター見学、小型機遊覧飛行、格納庫見学など、普段は体験できないような内容が盛りだくさんでした。

当事務所からは、受注業者のご協力を得て、昨年度も好評だった小型バックホウの体験乗車とエアートランポリンを企画しました。

9月20日は「空の日」  
9月20日～9月30日は「空の旬間」  
もっと感動、空はフロンティア



9月20日は空の日

この期間には、全国各地の空港等で航空に関する様々な催し物が実施されています。



エアートランポリンも大人気でした！



開催時間の10時～15時まで常に長蛇の列！



## 若戸大橋・若戸トンネルを見学 ～大分工業高等専門学校の学生～

平成27年9月29日(火)、大分工業高等専門学校の3年生43名(男性33、女性10)が、北九州市の戸畑と若松を結ぶ若戸大橋の見学にやってきました。北九州市道路公社と地元企業の協力を得て、現場近くの「わかちく史料館」で洞海湾の歴史を学んだ後、若戸大橋と新若戸道路(若戸トンネル)を見学しました。

【若戸大橋】

【若戸トンネル】



【わかちく史料館】



見晴らしがよくて気持ちいい！



コンクリートの箱を沈めて作ったんだね！



高さおよそ40m！！



日常の管理が大事です！



洞海湾ってこんなに広がったんだ！

当時の海図ってすごいなあ！





## まもなく連結「陸・海・空」 ～九経連交通委員会が視察～

平成27年10月9日(金)、九州経済連合会(交通委員会 企画部会)の視察団19名が、当事務所管内にある東九州軸の交通拠点施設の視察に来られました。当日は、北九州市港湾空港局と阪九フェリー(株)の協力を得て、北九州港ひびきコンテナターミナル、新門司フェリーターミナル・新造船、北九州空港といった海運や空運の現場を視察しました。

交通拠点施設の後に視察した東九州自動車道の工事現場では、2016年春の全線開通に向けた工事の状況を見ることができました。

東九州自動車道の全線開通で陸・海・空の交通ネットワークが連結され、広域的な集貨が可能となる北九州港、北九州空港の更なる拠点化や競争力強化、物流の利便性向上や観光客の増加といった東九州一帯の経済の活性化に寄与することが期待されています。



向上した車両搭載能力、充実した設備にホテルのような客室の新造船



将来性を秘めた空港島内の開発可能用地



2016年春の全線開通に向け工事が進んでいる



クルーズ船寄港も可能になったひびきコンテナターミナル



## ようこそ 北九州港へ ～インドネシア運輸省研修団御一行様～

平成27年10月21日(水)、インドネシア運輸省研修の関係者ら24名が、北九州港の新門司フェリーターミナルと門司港レトロの視察に来られました。今回の視察は、フェリーやクルーズ、港湾運営の専門家からなる研修団で、当日は、(株)名門大洋フェリーの協力を得て、ターミナルビルと新造船の船内を視察しました。

門司港レトロでは、展望室から門司港のまちと関門海峡を一望し、門司港の歴史についても紹介しました。



向上した車両搭載能力、充実した設備にホテルのような客室の新造船

インドネシアは、人口2億3千万人、1万3千以上の島々からなる世界一の多島海洋国で、島と島を結ぶ船が多数就航。同国におけるフェリーは、国民生活を支える大きな役割を果たしているが、同国では大型船の建造能力や資金調達力に乏しいことから、かつて日本で活躍した多くのフェリーが、中古船として海を渡り、現地で活躍している。



門司港レトロ展望室から一望できる「関門海峡」と「関門橋」



新造船の車両デッキ見学の様子

【発行】 国土交通省 九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所  
801-0841 北九州市門司区西海岸 1-4-40 Tel: 093-321-4632 Fax: 093-322-1007